

Ⅱ 資料の収集・研究成果の公開

—博物館資源センター—

【概 要】

博物館資源センターは、資料の収集・管理と、研究成果公開の場である展示を中心とした博物館事業を所管している。これらを効率的に運営するため、資料・修復担当者および情報・知財担当者による会議、展示担当者による打合せ、ならびにくらしの植物苑運営会議での議論をふまえ、月例の博物館資源センター会議を開催して事業の実施にあたっている。

1. 資料の収集・製作・保存管理

歴博館内における研究活動のみならず、博物館を有する大学共同利用機関として、大学をはじめとする館外の研究諸機関およびそこに所属する研究者の利用に供するため、資料の収集と保存管理は館の中核的な事業のひとつである。資料収集にあたっては、大学や地域博物館では収集することが困難な資料を収集することで研究や教育に資する「共同利用性」、中長期的な視点を持って計画的にコレクションを充実させる「継続性」、学界の研究状況や社会状況の変化に対応する「柔軟性」をとくに重視し、館外の有識者をまじえた資料収集委員会の審議と助言を得ながら、広い視野に立った正当性の高い収集をめざしている。また、2025年度は、総合展示第5室（近代）・第6室（現代）のリニューアルに必要な資料も引き続き収集・製作した。

資料の保存管理については、資料保存環境検討委員会の助言の下に、文化財害虫や温湿度等の調査を継続的に実施し、環境の改善に取り組んだ。2025年秋以降は虫菌害対策の燻蒸用薬剤であるエキヒュームSの使用が終了し、資料の観察と清掃、二酸化炭素殺虫によるあらたな資料の保存管理体制に移行した。

2. 展示活動

展示活動は博物館型研究統合という理念のもとで歴博の研究成果を学界および社会に発信する重要な機会である。

歴博の展示には、総合展示、企画展示、特集展示、くらしの植物苑の特別企画、人間文化研究機構の基盤機関が連携して企画・実施する連携展示などをその具体的な活動として挙げることができる。また、第4期中期目標・中期計画にもとづき、機構本部の共創先導プロジェクト「開かれた人間文化研究を目指した社会共創コミュニケーションの構築」の一環として総合展示を維持、企画展示を開催し、その手法の高度化を図っている。

総合展示はこれまで、研究の進展に応じたリニューアルを実施しており、2026年3月17日には総合展示第5室（近代）および第6室（現代）の一部がリニューアル・オープンした。また、総合展示第2室（中世）についても2022年度にリニューアル委員会が発足し、あらたな展示の内容についての検討が続けられている。

その他、2025年度は企画展示1本、特集展示3本を実施した。くらしの植物苑では、4本の特別企画を開催した。

3. 情報発信

歴博の資料収集方針にもとづき蓄積された資料は、館蔵資料データベースに登録されて一般に公開されている。また、一部資料については資料調査プロジェクト等を実施することで、研究資源として有効利用するために必要な情報が付与される。その成果は、目録・図録の刊行、あるいはコレクションに特化したデータベースの公開等の形で社会に還元されている。

なお、現在運用している館蔵資料データベースのメンテナンス・サポートが2027年1月に終了することから、データベースのリプレイス作業が進められている。

博物館資源センター長 松田 睦彦